

＜「方法」と「新・方法」＞講義立会記

清原 彩

まず、この講義を受けて私は考え方の視野が広がったなと思います。具体的にここがこう変わったとか、こうなったなど言葉では説明できませんが、すごく貴重な体験を3ヶ月間受けたと思っています。

方法主義、新・方法主義とは何なのか。これについては私もはっきり理解することができませんでした。結果に重点を置くのではなく、手段、過程、方法に重点を置く。それがすべてなのかなとも思います。

方法主義の3人(中ザワ先生、足立さん、松井さん)がどこかのホールでそれぞれが作品を作っているビデオ(中ザワ先生が黒板に曲線を描いていて、足立さんがトイレットペーパーに何かを書いていて、松井さんが辞書の単語を…。すみません、映像としては覚えているのですが、言葉の説明をはっきりと覚えていません。)を見たとき、これには単純に楽しむという要素がないと思いました。

一方で、新・方法主義の作品(鳩時計や修行、測量、アップローディング・イベントなど)を見ていて方法に比べて単純な面白さ、楽しさが含まれていると思いました。私の直感で言うと、方法は白黒、新・方法はカラーというようなイメージです。別にこれは方法を否定しているわけでもなく、新・方法を方法に比べて単純であると言っているわけではありません。ただ、この間の新・方法のゲスト講義を聞いていて思ったのは新・方法のほうが哲学的な面白さではなくて、思わずにやりとしてしまいそうな面白さを求めているのではないかと思いました。

それに自分で考え出したにもかかわらず、新・方法メンバーから脱退した理由について先生にお聞きしたとき年代や、作風の違いなど特別な理由もないとおっしゃっていましたが、先生が求めていたものは旧方法に近いのではないかな、と思います。哲学的にというか、周りには理解しがたい自分の世界を持ち、それを独自の手段で表す。確かに、新・方法でもそれを表すことは可能だと思いますが、どちらかというとな新・方法は周りの人から見てもまったくよくわからない手段を用いるのではなく、一般の人にもよくわかる手段で自分たちの主張を表しているのではないかと思います。なぜそれを行うのかという点は周りから見えてはわかりません。そこは方法との共通点であると思います。しかし、中ザワ先生は無意識にその微妙な方法との違いに違和感を覚えていたのではないかと思いました。

これは私の勝手な解釈なので、実際は違うと思いますが…。できればやっぱりこの部分を授業内で話していただけたらよかったなあと思いました。

この解釈が本当に先生の伝えたかったこととマッチしているのかは定かではありませんし、もしかしたら誤解をしていると思います。しかし、ない頭で先生の授業を考えていたらこういうなりました。なかなか理解できない私の脳みその硬さに怒りを覚えることもありましたが、結果でなく手段を重視するなど考えたこともなかったので本当に新鮮な体験でした。ありがとうございました。